

第2学年「リライトによって『平家物語』を読み味わう」の実践を通して

鹿児島県立加治木高等学校
教諭 宮内 裕平

1 研究実践の目的

本年度は、総合教育センターの研究協力員として、「未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業に関する研究—学びの価値を見いだす授業デザイナー—」について研究実践を行い、センターが提唱する「4つの視点」に基づく実践を試みた。本単元では、高等学校学習指導要領古典Bの内容（読むこと）エ「古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。」を受け、『平家物語』『忠度の都落ち』をリライトし、級友と交流・共有する活動を通して、巧みな描写、繊細な表現、簡潔な語調などから、登場人物の思想や感情などを読み味わうことをねらいとしている。

これまでの古典の授業は、教師主導で現代語訳に終始することが多く、生徒の主体性を引き出すものはほど遠いものになってしまいがちであった。しかし、本来は、長年読み継がれてきた作品自体の魅力を生徒それぞれが読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることに意義がある。本教材「忠度の都落ち」は、武人であり、歌人であった忠度の生き様と、それに応える俊成の有様を、語り手が見事に描ききっており、現代を生きる生徒たちの心に響くものがあると考えられる。本単元では、本文を踏まえながら自分の想像力や言葉による見方・考え方を働かせながら本文をリライトし、他者と交流することを通して、古文を主体的に読み味わっていくことを意図した実践である。

2 研究実践の実際（『平家物語』『忠度の都落ち』）

(1) 本単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
本文に用いられている語句の意味や文法事項を理解し、古典を読むために必要な知識を身につけている。	本文の内容や表現の特色を理解して、『平家物語』を自分なりに読み味わっている。（「読むこと」エ）	内容や表現の特色に関して理解したことを他者と比較・交流することで、読み味わおうとしている。

(2) 授業デザインにあたって

身に付けさせたい資質・能力

古典の内容や表現の特色を理解し読み味わい、作品の価値について考察すること

目指す児童生徒の姿

・読むだけでなく、自分なりに表現の特色は、趣に理解する。
・古文も思う存分読み味わう姿。

国語が好きな生徒たち

国語に苦手意識のない生徒たち

・次項の後半と後半に作る姿
・5分間考える姿（→疲れない）
・交流の際、自分から作品を見に行く姿

どの場面をリライトする？ } 選択できる
どのポイントに着目する？ }
・自分印象的だった場面、表現した場面を選ぶ。
「ここを味わいたい！」

古文を読み味わおう
→ 自分1人で読み味わうのはいいけど、
リライトして他者と交流しながら『平家物語』を読み味わおう。
・リライト文を見せたいポイント

「や、いいね」「うん、うん」



自律性

有用性

必要性




関係性

どのポイントで交流したいかの視点を提示する。
・事前「思いの強さ」の教科文で教師がリライト文をつくった。
・自由な考えで交流させる。

次の学習につなげることを意識させる。
・感想を別紙、有か何かに別紙に書き添えて提出させる。



(3) 単元の実際 □ 教師の言葉掛け [] 生徒の反応

過程(時間)	主な学習活動	教師の手立て
導入 (2)	<p>1 単元の学習課題を理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>本単元では、古文を読み味わう学習をします。いつものように一文ずつ現代語訳する活動はしません。作品を自分がどう受け取ってどう鑑賞するかということを主眼としたいと思います。そのために「リライト」という学習活動を取り入れ、その後、交流を行います。</p> <p>2 教師が提示するリライト文を批評する。</p> <p>3 他の学級から出された意見も含めて、批評の視点を得る。</p> <p>4 「忠度の都落ち」の本文と現代語訳を読み、あらすじの確認をする。 ※本単元のリライトとは… ただ現代語訳するのではなく、古文独特の行間を自分の想像力や言葉による見方考え方を働かせることでオリジナルの要素を付け加えて書くこと</p>	<p>○ この単元で何をどのように学び、何ができるようになるのか、を具体的に示し、体験させる。 ① 必要性</p> <p>○ 他の教材で教師がリライトしたものに付箋で感想を付けさせて着目する視点等を共有させる。</p> <p>古文の行間の省略に改めて気づいた </p> <p>② 関係性</p> <p>○ 平家物語の現代語訳と漫画を提示した後、内容に関わる簡単な問いを用意し、理解できたか確認させる。</p>
展開 (2)	<p>5 「忠度の都落ち」をリライトする。</p> <p>自分が着目したいと思う表現や文脈が含まれる場面を選択してリライトしましょう。</p> <p>6 自分の作品を自分で振り返る。</p> <p>7 付箋を用いて交流を行う。</p> <p> ・「月の光に照らされた二人の姿」という表現から神秘的で感慨深い様子が良く伝わってきた。</p> <p>・自分は「志賀の都は荒れにしを」を「廃れてしまった」としたが、Aさんは「かつての灯りは消えてしまった」としてこんな表現もあるんだなと思った。</p>	<p>○ どの場面をリライトするか、自分で自由に選択させる。</p> <p>○ 自分が工夫した箇所や苦戦した箇所に付箋を付けて振り返らせる。</p> <p></p> <p>② 自律性</p> <p>○ 交流を通して、自分が着目した部分を級友がどのように表現しているかに注目させる。 ③ 関係性</p>
終末 (1)	<p>8 作品を用いて語句や文法事項の確認を行う。</p> <p>9 級友から書いてもらった感想を基に自分がリライトした作品を振り返り、『平家物語』について考えたことをまとめる。</p> <p>・ 最初は、忠度たちに対して「たった歌だけでおおげさだ」と思っていたが、今では忠度の熱い気持ちに感動している。(学習内容)</p> <p>・ 今までは古文の表面的なものしか見ていなかったけど、リライトすることで古文が自分の中を通り抜ける感覚があった。(変容・一般化)</p>	<p>○ 大筋を掴んだ状態であれば、細部の確認もしやすいことを体感させる。</p> <p>○ この単元の学習前と学習後を比べて思ったこと、考えたことをまとめさせる。 ④ 有用性(熟達)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① 分かったこと(学習内容)</p> <p>② できるようになったこと(変容)</p> <p>③ 今後に生かせること(一般化)</p>

3 成果と課題

〔成果〕

・結果論ではあるが、教師自身がリライトする際に失敗を繰り返し、修正を重ね、試行錯誤する姿を生徒に示せたことで、生徒達に「自分もやってみたいな」という動機付けができ、「読み味わうためにリライトして批評し合う」という学習の「必要性」をもたせることができたのではないかと思う。学習の動機付けができたことで、生徒達は自然と主体的な学びへと向かい、「自律性」「関係性」「有用性」が有機的に結びついた。

・生徒同士の交流を通して、生徒たちは着目すべき表現への視点を共有することができたため、多くの生徒が、本文の表現を基に本文を読み味わうことができた。読み味わうことに特化し、微細なことは大幅にカットした実践だったが、考査結果を見る限り、平素の授業より効果的な授業だったのではないかと思う。特に、古典に苦手意識をもつ生徒達への効果が顕著であった。

〔課題〕

・交流して批評する際、互いに気を遣いあい、他者の作品に好意的な評価ばかりする姿が見られた。本来、評価すべき点だけでなく、改善すべき点を指摘しあえてこそ深い学びへとつながるものであると考える。批評は中傷とは異なるので、互いに批評しあえる雰囲気作りや、批評の意義の理解を深化させることが今後の課題である。

・生徒のリライト文や振り返りシートには素晴らしい気付きや思考の深化が見られたが、一部の紹介にとどまり、それらを活用しながら授業を展開していくことができなかった。より生徒達の声拾い、全体で共有していく授業を目指したい。